

● 苗立枯病予防

対策として床土に焼土や人工培土を使用しない場合タチガレエースM剤を使用してください。また過かん水などによって育苗ハウス内が蒸れてしまうと発生を助長しますので適切な温度管理をしましょう。下表を参考に自分にあった農薬を施用しましょう。

使用時期	農薬名	使用量、希釈倍率	散布量（箱当たり）
床土混和	タチガレエースM粉剤	6～8g／箱	—
播種時	タチガレエースM液剤	1000倍	500ml
		2000倍	1000ml
発芽後	タチガレエースM液剤	500倍	500ml
		1000倍	

※後作に野菜を作付する場合は箱粒剤を使用しないでください。

● 被覆シートは天候に合わせて使い分けましょう

無加温出芽（ベタ置き）は今年の天候に合わせて使用する保温資材を選びましょう。近年は春先の寒暖の差が目立つため被覆シートの特徴を把握し、使い分けをしながら対応しましょう。また出芽するまでの間は、被覆シートと苗箱の間に温度計を入れ床土温度を管理しましょう。

被覆シートの特徴と注意点

資材名	効果	特徴及び注意点	資材の写真
ミラシート (白スポンジ系)	保温、保湿	適度な厚みがあり、保温効果に優れることから、低温が予想される場合は効果が高い。好天が続く場合は床土温度が急激に上昇しやすいため苗ヤケの発生に注意が必要。	
シルバーポリトウ (ポリ+アルミ複合)	保温、保湿、遮光	表面のアルミにより遮熱効果があり床土の高温防止に役立つ。低温時にも保温効果が期待できる。被覆する際には裏表を確認する。床土温度が急激に上昇しやすいため苗ヤケの発生に注意が必要。	
太陽シート (反射系)	保温、保湿、遮熱	高温時における急激な温度上昇を防ぎ、苗ヤケ等の高温障害を防止する。低温時は床土温度が上がりやすく出芽日数がかかりやすいので床土温度を上げる工夫が必要。	
ラブシート (不織布)	保温、通気、通水	単独で使用すると乾燥しやすい。他シートと組み合わせて使用する場合は、ラブシートは下に敷き、その上に他シートを被覆する。	



No. 1 農業技術情報

平成30年3月発行

発行：秋田おぼこ農業協同組合／秋田県農業共済組合仙北支所
監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課



気象変動に負けない稲づくりをしましょう

今冬は、例年以上の積雪となり、雪解けは遅くなる見込みです。近年の春作業期間中は高温による苗ヤケやもみ枯細菌病の発生が見られました。活着の良い稲を作るためには健康で丈夫な苗を作ることから始まります。これから本格的な春作業に向けて病害虫をださない管理を徹底しましょう。

● 清潔な環境で作業をしましょう

作業場内にある稲わらや籾殻には、病原菌が付着している可能性があり、いもち病やばか苗病の伝染源になってしまいます。特に昨年は穂いもちが管内で散見されたため、作業に取りかかる前に作業場内の環境衛生を確認しましょう。

- ・配布された種子は清潔なパレット等の上に置き、床に直接置くことは絶対に避けましょう。
- ・品種や消毒方法の違う種子を一緒に置かないようにしましょう。
- ・種子予措、育苗作業に使用する器具や容器は、使用する前に洗浄し汚れなどを落としましょう。特に、昨年ばか苗病やもみ枯細菌病に悩まされた方は、器具や容器が保菌している可能性があるため、育苗資材の消毒を行いましょう。
(消毒資材：イチバン500～1,000倍で使用)
- ・浸種に使う水は水道水か井戸水を使用しましょう。
- ・複数の品種や消毒方法の違う種子を同じ容器で一緒に浸種や催芽するのはやめましょう。
- ・周辺からの病原菌の侵入を防ぐ為、浸種、催芽時は容器にフタをしましょう。
- ・浸種、催芽で使用する器具や容器は品種や消毒方法が変わるごとに十分に洗浄しましょう。



園芸施設共済

春の嵐に備えて **水稻育苗ハウスご加入を!**



なんと**いつでも**
安心が一番!

例) 3間×10間 (30坪) の水稻育苗ハウス (新品)
補償金額 **182,000円**
掛金はわずか **1,183円 (2ヶ月)**

※詳しくはNOSAIまで TEL 0187-63-1066

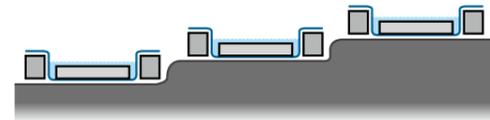
● プール育苗に取り組まれる方へ

近年プール育苗が増加傾向にあります。プール育苗はハウスにビニールシートなどでプールを作り、苗が緑化期後1葉以上に生長したら水を入れて管理する育苗方法です。プール育苗を行うことで水管理や温度管理作業が大幅に軽減されるので、日中の管理が難しい方などにオススメです。また、もみ枯細菌病や苗立枯細菌病の発病を抑制することができ健苗育成に役立ちます。

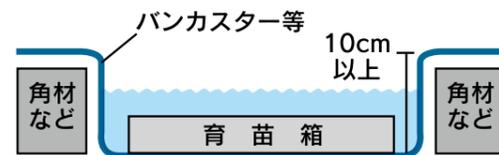
プール育苗を行うハウス内はできるだけ水平にして足跡がつかないように鎮圧しましょう。育苗ハウスの傾斜が大きい場合はプールを数段に区切るなどして置き床を水平にしましょう。

置き床の幅は育苗箱を並べる幅より5~10cm程度広くし周囲は土や角材等で8~10cm程度高くし枠としましょう。プールには水の漏れないビニール（ブルーシート、バンカスター等）を使用します。

根が伸びやすいため育苗箱の下に敷き紙をしき、根が貫通しないようにしましょう。また、プール内に育苗箱を並べる際は、発泡スチロール等の上から作業をするなどしてビニールを傷つけないように注意しましょう。



●育苗ハウス内全体を水平に出来ない場合はハウスを細かく区切りながら敷物に合わせた水平な置き場を作ります。(例: 1.5間~2間×3間の穴の開いていないビニールシートを準備しその部分を水平にする)。



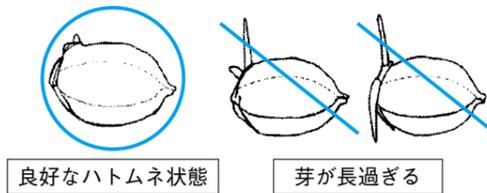
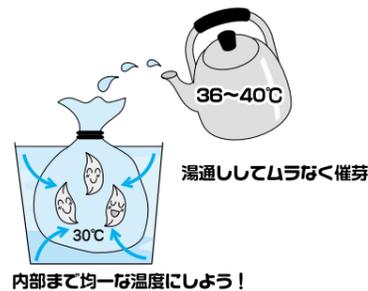
●ハウス内をできるだけ水平にならした後に、ビニールシート(バンカスター可)を敷き、育苗箱の周囲を土または角材等で押さえてプールを作ります。高さは10cm以上が理想。

● 催芽はていねいに行いましょう

催芽時には36~40℃のお湯で湯通しを行い、種子袋の内部まで均一な温度になるようにしましょう。その後、水温30℃で催芽を行います。水温が32℃を超えるともみ枯細菌病などの病気にかかる危険性が高まりますのでこまめに水温をみて作業しましょう。

温湯消毒種子を使用する場合は、催芽時にタフブロック剤を使用し防除効果を高めましょう。

芽の長さはハト胸程度を目安とします。催芽時に芽を伸ばしすぎると播種作業などで損傷が多くなり、播種量のばらつきや播きムラ、苗ぞろいの不均一の原因となるので注意しましょう。



● ほ場環境を整えましょう

昨年、作業の影響により田面に凸凹のある圃場では、雪解け時に高低差を確認し田面を均平にしましょう。雪が残っているところは高くなっているのを切土します。また、水がたまっているところは低くなっているのを盛土しましょう。ほ場の高低差を少なくすることで耕起や代かきが均一になります。田面が均一になることで肥料・除草剤の効果が安定し、生育が均一になり、近年問題視されている斑点米カメムシ類の被害を抑えることにも繋がります。

浸種と催芽は温度をこまめに確認しましょう

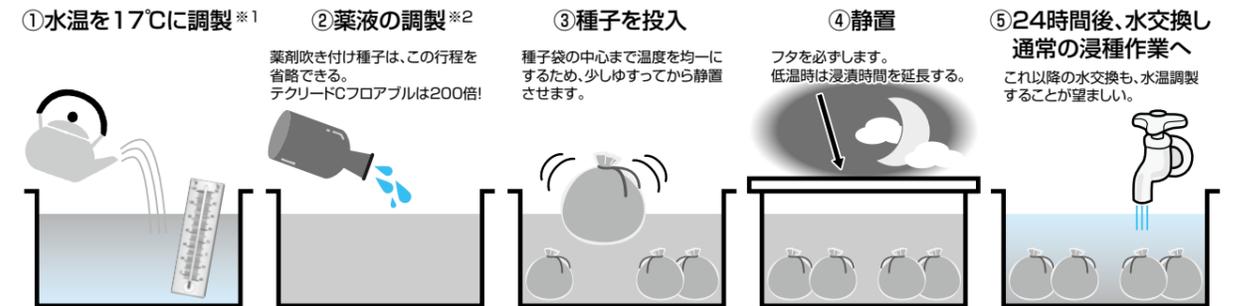
● 薬剤を効かせるためには

薬剤吹付種子は水に漬けて溶け出した薬剤を種粉が吸収することで初めて消毒効果が得られます。水温が10℃以下の場合には薬剤の効果が低下しますので、浸種時の水温は10~15℃を目安に行いましょう。はじめにお湯を使い水温を17℃程度にしてから浸種を始めると薬剤の効果が安定します。

水の量は種子1kgに対し水3.5ℓ程とし浸種開始から2日間は水の交換は行わず、1回目の水交換後、2~3日おきに水の交換を行いましょう。浸種期間は浸種水温10度の場合で6~8日程度とし、水交換時には必ず粉の状態を確認し、粉袋を上下入れ替えるなどして均等に吸水させるようにします。

浸種時にしっかりと粉に吸水させることにより、芽出しが揃います。十分に吸水をした粉は胚が白く透けて見えるようになり、浸種終了の目安となります。

無消毒種子を消毒する場合は効果の高いテクリードCフロアブルを使用しましょう。その場合は初めの浸種水温を必ず15℃程度にしてから種粉をつけるようにしてください。



※1 種子を投入した際に水温が適温まで下がることを狙って、最初に少し高め水温に調製します。
 ※2 ヘルシード剤、テクリード剤ともに浸種水温10℃以下では薬剤効果が不十分になったり生育抑制につながる場合があります。

● 温湯消毒種子の注意点

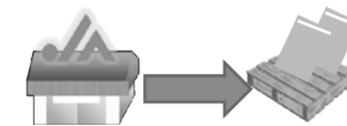
温湯消毒種子はお湯により殺菌が終了した無菌状態の種子なので、浸種後も清潔な環境に保つことが重要です。

河川水などは雑菌等がいるため、浸種、催芽に使用する水は水道水か井戸水を使い、水の量は種子量の2倍以上で行いましょう。また消毒方法が違う種子を同じ容器で浸種しないでください。

呼吸活動が活発なため、水は毎日交換し、水循環は病原菌の増殖を助長させるため絶対に行わないでください。また、浸種水温は10~15℃の範囲で行いましょう。

芽の動きが早い傾向にあるため粉をよく確認しましょう。

- ① 種子が届いたら清潔な場所で保管
- ② 温湯消毒種子単独で行い、水は掛け流しか、毎日交換して下さい。



温湯消毒種子以外の種子を同じ容器で処理してはいけません!

